

## 聖句

水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。  
大河の中を通っても、あなたは押し流されない。  
火の中を歩いても、焼かれず炎はあなたに燃えつかない。わたしは主、あなたの神イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。

イザヤ書 43 章 2-3 節

## 「ただいま」

日勤の支援員が、玄関の扉を開ける。

「おかえりなさい！」 外国籍の母子が、「ただいま！」と入って来る。緊急一時の保護施設である女性の家HELPに入所した当初は母子ともに日本語は一言も話せなかった。配偶者や親族からのDV被害を受け、福祉事務所を介して入所する方の多いシェルターは加害者の追跡にいつも細心の注意を払っている。玄関の呼び鈴が鳴っても、すぐには扉を開けることはしない。数か所に設置されている防犯カメラの映像をよく確かめる。緊張感が走る。

「おかえりなさい！」にこやかに、さわやかに戸口に立つ支援員。「ただいま！おなかがすいた！」短い期間に子どもは必要な日本語表現をよく覚える。

マスクを廃棄し、手指を消毒して…。入室前にする数々のこと。「不要不急の外出は極力控え、新型コロナのウイルス感染予防に皆で協力しましょう」と支援員は、外国籍の入所者にもそれぞれの母語で説明を繰り返している。施設内の掲示も、日本語、英語だけでなく、入所者の言語であるアジア、アフリカ、ヨーロッパの言語で書かれている。でも感染症が、「うつる病気であること」「人から人へ感染する危険があること」を実感として理解してもらうことはとても難しい。

又「不要不急」といっても、人それぞれで判断基準は異なる。「今それをしなくてもよいでしょう」と思っても、その人にとっては「今どうしてもしなくてはならない重要なこと」なのだ。文化、宗教、環境が違う。個性が違う。一人一人違ってよいとわかっているが、緊急事態宣言が出される事態では、その違いを受け入れるのは結構難しい。

新型コロナウイルス感染防止対策がとられる中で、女性の家HELPでは今まで以上の苦労が強いられている。例えば、子どもの時間の過ごし方。追跡の危険防止を考えながらも、「広々とした公園で思い切り運動を」「同年齢の子ども同士で遊ぶ機会を」と公園や児童館に連れて行っていたが、それも難しくなった。敷地内でどう過ごしたらよいのか？ 成人女性たちも同じ。地域の日本語教室も一時は中止。「ソーシャルスキルアップにつながる」との考え方から、同行支援し電車に乗って買い物にでかけることもしていたが、それも難しくなった。施設内で何かを制作し販売することは、緊急一時保護施設では許されていない。次のステップに進むための準備にも時間を要し先に進めないでいる入所者も多い。ビデオ鑑賞や読書が好きな人もいるが、数週間、数か月と滞在が長期化すると時間の過ごし方が課題となる。

ミュージックセラピー、アートセラピー、フラワーアレンジメント、ヨガ教室、日本語教室… 補助金や助成金を最大限に活用し、ZOOMでの実施など。「笑顔で過ごす時間を少しでも多く」との支援員たちの願いが込められたプログラムである。

「おかえりなさい！」「ただいま！」そうした会話が自然に飛び交う日々を祈り待ちつつ、日々を過ごしている。

女性の家 HELP 施設長 松井弘子



# 2020 年度 HELP 利用者概況

---

## ～喪失を受けとめ、病と折り合い、時間をかけて 自分らしい新生活の構築を目指す女性たち～

2020 年度の HELP 利用者は、外国籍女性 14 名、日本国籍女性 47 名、同伴児 7 名、合計 68 名であった。総宿泊数は、2497 泊（前年度比 118.9%）である。2019 年度に比べて利用者総数は 15 名減少したが、宿泊数は増加となり、滞在長期化の傾向が見られた。2020 年度は、従来より実施しているミュージックセラピー（月 4 回）、フラワーアレンジメントに加え、年度後半からは内閣府プロジェクトによるアート、ヨガ等多様なセラピープログラムを実施した（P.6 参照）。

DV 被害女性の安全確保等のため、HELP スタッフが医療機関へ同行した割合は、全入所者では 16.1%（前年度 35.9%）、外国籍入所者では 53.57%（92.9%）といづれも前年度に比べ大幅に減少した。コロナ禍で可能な限りの接触回避が図られたことが一要因と考えられる。言葉の支援を含めた同行支援の必要性のある方が多数いることは変わりない。

### ＜外国籍女性＞

外国籍女性総数 14 名のうち、子ども連れは 2 名おり、同伴児は 2 名、年齢は未就学児であった。入所理由の上位は DV、ホームレス（各 37.5%）、次いで、家族からの暴力、人身取引（各 6.3%）、その他（12.5%）と続く。その他の内容は、内夫からの遺棄である。

外国籍全体の平均滞在日数は 76.75 日で、前年度の 46.46 日から 1 か月以上伸長し、過去 5 年間で最長である。年度始めから複数回発令された新型コロナウィルスの緊急事態宣言の影響で、中長期型の施設の入所受け入れ制限による待機や、帰国時期の延期を余儀なくされたりする方がいたためである。

- DV 被害者…2020 度に依頼された DV 被害女性の中には、様々な事情で子どもを連れてくることの叶わなかつた女性が複数いらした。本国での問題解決方法と異なり、時間のかかる日本の制度を利用することへの葛藤は共通していながら、他の外国籍入所者などとの交流を通して、少しづつ希望を見つける女性、支援者と粘り強く話し合いを重ね、自らの願いの実現を目指す女性など、それぞれが「その人らしさ」を發揮して危機的な状況を乗り切る姿に力強さを感じた。
- 居所無し…2020 年度は、安定した人間関係と住まいがあったにも関わらず、双方を同時に失った方、福祉事務所への相談でようやく HELP が当面の「安全な」居所となつた方などを受け入れた。中には、滞在中に心身のコンディションを整え、自ら次の居所の開拓に努力した女性もいらした。
- 人身取引…被害者認定手続きの間、日本語教室（オンライン）が将来の就労支援として関係機関主催で行われた。
- 入所者・退所者へのケア…2020 年度は、入所者を対象とした施設内行事（ハローウィンの仮装大会など）、都内公園散策、水族館への外出などのお出かけ行事を行つた。



## <日本国籍女性>

日本国籍女性は47名、うち子ども連れは3名であった。入所理由は、ホームレスが51.9%と半数以上を占めた。次いで、DV（夫・恋人からの暴力）が25.0%、家族からの暴力15.6%、妊娠3.8%、その他3.8%であった。2020年度は、DV（夫・恋人からの暴力）の利用割合は減少するも、家族からの暴力と合わせて約40%が暴力被害に遭った女性と子どもたちであり、前年度と同程度の割合になった。他方、妊娠女性の占める割合は減少した。

2020年度にDV（夫・恋人からの暴力）で入所した女性たちには、高齢の女性も複数含まれる。安全確保をしながら、成人した子どもや友人と交流を通して、次なる居所確保へと歩んだ方や、早期に高齢者施設に入所が決まった方もいらした。また、多様なセラピーに参加しながら、次の施設入所時期を待つ母子もいらした。

ホームレスの女性たちの年齢やシェルター入所に至る背景は様々であり、HELPでの過ごし方もまた多様である。人生で初めて「自分の感じたことを表現していいと思えた」若い女性、勧められてシェルターを利用してみたものの、居心地が悪く早期退所を選択した性的マイノリティの「女性」、一日も早い自立生活を希望しながら、発作を伴う持病との折り合いに苦慮する女性、母子統合へ向けて、関係者との信頼構築に時間をかけて取り組む女性など、「早い決断」や「時間をかけた粘り」で、希望する将来に近づく姿が印象的であった。

平均滞在日数は24.4日、前年度（21.3日）より3日伸長し、3週間以上の長さを保った。

## <電話相談>

2020年度の電話相談は、日本を含む29の国、地域（前年度27カ国）の方から、883（前年度比121.9%）の相談項目について相談があった。国内外から寄せられた相談の内容は、DVに関する相談、特別定額給付金の申請方法、有期雇用で不利な労働条件を押し付けられる、コロナ禍で家族を亡くして日本へ一時帰国したが、渡航困難で居住国へ帰れないなど多様である。

その他、近隣自治体（相談窓口）、外国籍支援団体、大使館等から、留学生・元留学生の妊娠・出産、DV被害や生活困窮中で、格を持つ方への支援、職場変更などに関する多様な照会が寄せ中でシェルター入所を希望するますます多様化している。一方、社会資源が通常通りに機能しない自治体の新任相談員が苦悩しながら相談支援にあたる様子が見受けられた。



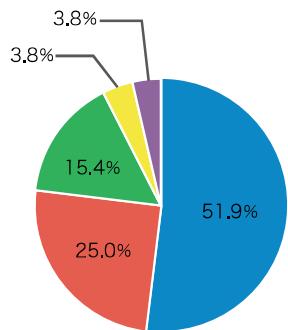
生活保護準用にならない在留資予定の技能実習生への居所提供られた。生活状況がひっ迫した外国籍の相談は、国籍や言語がコロナ禍で新任者研修の中止や、い状況下で、特に年度当初は、

また、日本人の電話相談では、昨年度同様DVや性虐待経験の「その後」の生活の生きづらさを訴える電話等が続いている。加えて、今年度は、近隣自治体からDV等による新規のシェルターでの一時保護依頼相談が相次いだが、利用状況に照らしてなかなか応じられない場面もあった。

# 2020 年度統計表

## 利用者内訳

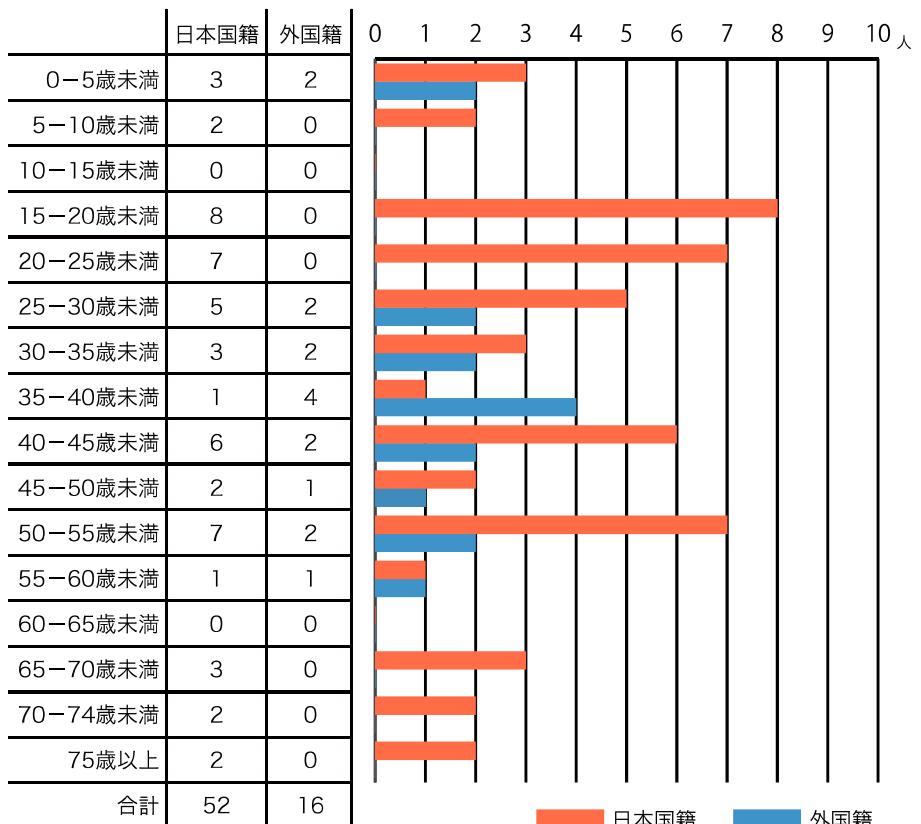
日本国籍



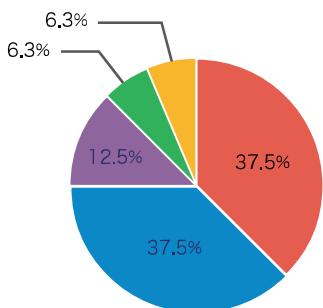
ホームレス	27 人
夫・恋人からの暴力	13 人
家族からの暴力	8 人
妊娠	2 人
その他	2 人

## 利用者年齢分布

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日



外国籍



夫・恋人からの暴力	6 人
ホームレス	6 人
家族からの暴力	1 人
人身取引	1 人
その他	2 人

## HELP 国籍別滞在者数

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日) 昨年度から年度をまたいで滞在した者を含む

### HELP 国籍別滞在者数

国籍	女性	同伴児
フィリピン	3	0
中国	2	1
インドネシア	1	0
韓国	1	0
台湾	1	0
ペルー	1	0
ブラジル	1	0
アメリカ	1	0
コンゴ	1	1
ナイジェリア	1	0
南アフリカ	1	0
小計	14	2
日本	47	5
合計	61	7

### 外国籍利用者地方別内訳

出身地	人数
東京	9
神奈川	2
埼玉	2
茨城	1
三重	1
大阪	1
合計	16

外国籍女性 14 人  
その内同伴児のいる女性は 2 人

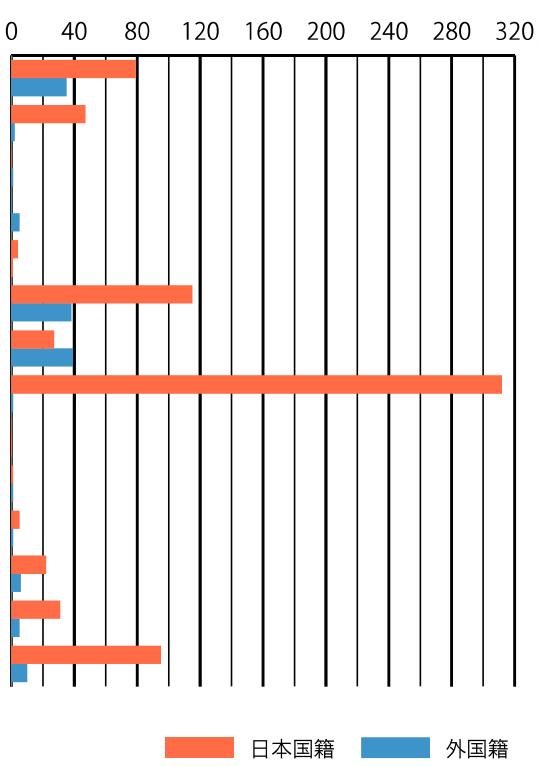
日本国籍女性 47 人  
その内同伴児のいる女性は 3 人



## 電話相談項目件数

### 内容別

	日本国籍	外国籍
DV	79	35
家族からの暴力	47	2
人身売買	0	1
在留資格・入管関係	0	5
労働	4	1
一時保護依頼	115	38
情報提供	27	39
心の問題	312	1
結婚	0	0
離婚	1	1
結婚生活上の問題	5	1
子どものこと	22	6
ホームレス	31	5
その他	95	10
合計	738	145



### 国籍別

国籍	件数
日本	738
フィリピン	32
韓国	11
アメリカ	9
中国	9
パキスタン	9
スリランカ	6
ベトナム	5
インド	4
インドネシア	4
タイ	4
モロッコ	4
ブラジル	4
ネパール	4
バングラディッシュ	3
マダガスカル	3
日本（2重国籍）	3
イギリス	2
ドイツ	2
リトアニア	2
ルーマニア	2
ナイジェリア	2
南アフリカ共和国	2
ウルグアイ	2
台湾	2
ギニア	1
カメルーン	1
モンゴル	1
ペルー	1
日本（米人妻）	1
日本（海外在住）	1
不明	9
合計	883

### 利用者退所先

退所先	日本国籍	外国籍
施設	33	5
アパート	4	1
女性センター	6	3
帰国	0	2
帰宅	2	0
友人・知人宅	2	0
路上	0	0
入院	0	1
住み込み就職	0	0
不明	1	2
未定	2	2
その他	2	0
総計	52	16

### 外国籍利用者平均滞在日数

2016年	40.14日
2017年	16.38日
2018年	50.03日
2019年	46.46日
2020年	76.75日

### 国籍別宿泊数

日本	1269
外国籍	1228
合計	2497

# 内閣府プロジェクトが始まりました



ヨガセラピー

昨年8月末に「配偶者暴力被害者セーフティネット強化支援交付金」の交付が決定、新型コロナウィルスの影響を受ける中で、感染対策も含め試行錯誤しながら進めてきました。

スタッフのより良い支援を目指して実施した、専門職（臨床心理士、弁護士、精神科医）による研修、スーパービジョンは各専門職月1回のペースでリモートで実施をし、利用者の背景への理解がより深まった気がします。また、入退所者の身体と心のケアのためのプログラムもヨガ、アートセラピーを週に1回実施しました。ヨガは身体をほぐすだけでなく

く、精神的なリラックス効果を感じることができます。アートセラピーは、なぐり描き法、コラージュ等、紙、布、粘土など様々な材料を自由に使って行います。言葉によらずに気持ちを表現することができる点に加え、参加者から、とても楽しいという感想をいただいています。外国籍の利用者向けの母語での通訳支援は特に法律、医療の面で活用し、また日本語教室は、退所後の地域での生活、就労への足掛かりとしての必要性を強く感じました。

今年度もプロジェクトの継続のため、交付金の申請を済ませました。退所後、里帰りのような形で、心理・生活面の相談が受けられるよう、アフターケアの取り組みも充実させていく予定です。コロナ禍で生活困窮をはじめ様々な課題が浮ぼりになっていきます。今後も女性たちの様々なニーズに対応できる支援の実現に向けて歩みを進めてまいりたいと思います。



## CAP プログラム講座に参加して

2020年11月6日から3日間、さいたま市で開催された「子どもへの暴力防止のための基礎講座」（NPO法人CAPセンター・JAPAN主催）に参加させていただきました。困難な状況でHELPに来る親子に接する時、いつも自分は何をすれば良いか、どんな言葉をかけば良いか、迷いながらその時々を乗り切っていましたが、今回答えがこの講座からもらえた気がします。

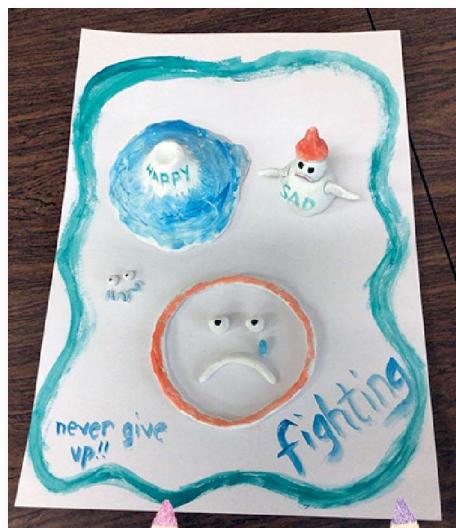
それは、CAPが提唱しているどの子どもにも与えられている権利、「安心・自信・自由」を心に留めて、私たち隣人がしつことだとわかりました。ないことも少し離れています。いつも子どもは母すべてだからです。母親ます。でも不安な状況にあるんばかり）る心の余裕持つのは大変です。少しづつでもHELPでの生活の中で親子の笑顔を取り戻すことが私の務めだと思いました。



かりこの権利を守ってあげるそばにいる母親には見えている隣人には見えることもあります。母親がが笑えば子どもも笑顔になる時、なかなか子どもを慮（おもんぱか）

る時、なかなか子どもを慮（おもんぱか）

また、子ども自らが様々な暴力から身を守る方法なども学び、側にいる大人が積極的に関わっていくことが、子どもたちのこれから的人生に大きく繋がっていくのだと改めて思われ、勇気を持って気が付いたことは声を出していくことが大切だと教えられました。



● ● ● アートセラピーの作品 ● ● ●

## 他の助成団体紹介

2020 年度東京都外国人緊急一時保護事業補助金、配偶者暴力被害者等セーフティネット強化支援金の他、三菱財団・(社福) 中央募金会（外国にルーツがある人々への支援活動応援 2,570,000 円）、(公財) ウエスレー財団（お出かけプログラム経費 37,003 円）、(公財) 愛恵福祉財団（コロナ禍消毒等経費 500,000 円、(公財) 俱進会（フラワーアレンジメント経費 111,844 円）をいただきそれぞれの目的に沿って使わせていただきました。又 (公財) ILBS から雨漏り修繕費等を、カナダ合同教会から畳取り替え代等を、UBS 証券から食品や雑貨、衣類をいただき、女性の家 HELP の生活を支えていただき、他団体からも献金・献品をいただきました。感謝をもって報告させていただきます。

# 「女性の家 HELP」を応援してください！

## ・・・・・維持献金で・・・・・

先の見通しの立てづらいこの頃ですが、皆さん、お健やかにお過ごしでいらっしゃいますか？このような時だからこそ、HELP を支えて下さる一人一人のお力により助けを求める女性や子どもたちの支援活動が続けられますことをなお一層心から感謝申し上げます。

昨年度は日本、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、台湾、アメリカ、ブラジル、ペルー、ナイジェリア、コンゴ、南アフリカ出身の女性と子どもたち 68 人が HELP を利用され、また世界 29 の国、地域の女性に関する電話相談を受けました。親や家族による虐待・暴力のため、また、つらい過去と現在の生きづらさを抱え女性の家 HELP を必要とする女性や子どもたちに支援ができるようスタッフ一同、一層の努力をして参ります。

厳しい財政の下、HELP が担う使命を全うさせて頂けますよう維持献金によるご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

2021 年 7 月 公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会理事長 飯田 瑞穂  
女性の家 HELP 施設長（施設担当理事兼務） 松井 弘子

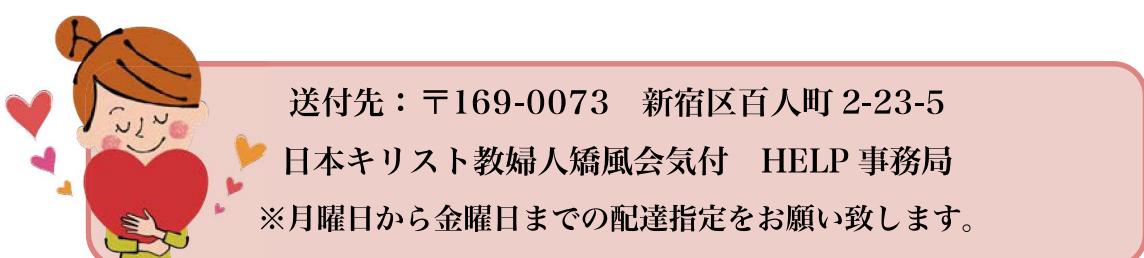


## ・・・・・物品寄付で・・・・・

女性の家 HELP では、利用者の方への日用品等のお渡しにあたり、それが「日々の生活に不自由のない」状況に留まらず、慣れた環境や人間関係から離れ、多くのお気に入り物品を失ってシェルターへたどり着いた女性や子どもたちが、充分な休息をとり、新しい生活に向けた「希望」と「意欲」を育むきっかけとなるよう心掛けております。皆様からお寄せいただいたお志を活かして、年齢や国籍・文化等に基づくおひとりおひとりの多様な必要に応えられる今後も努力してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

コロナ禍につき、現在は新品のみ受付しております。ご協力をお願い致します。

- |       |  |
|-------|--|
| 《食料品》 | 調味料（砂糖・塩・醤油・サラダ油）、ジャム、お菓子、嗜好品（コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・ジュース・クリープ）*賞味期限内の物    |
| 《日用品》 | シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用洗剤、ティッシュペーパー、化粧水、乳液、化粧品、ハンドクリーム。                   |
| 《衣料品》 | 大人用 - パジャマ、スウェット、靴下、ジャケット、パーカー、インナー（半袖、長袖）<br>*現在、子ども用品は受付しておりません。 |
| 《その他》 | 折りたたみ傘、靴、ノート、タオルケット、バスタオル・フェイスタオル、クオカード、商品券など。                     |



※月曜日から金曜日までの配達指定をお願い致します。